

⑤ 学校ボランティアから生まれる地域のつながり

「つながっていると感じられるようになる」と本当に楽しい」

きっかけは校長先生からの
お声かけ

平成16年12月に野庭団地地区の主任児童委員をお受けしてから12年目になります。野庭中学校のPTAの役員を終え2、3年経った頃に、PTAの役員の先輩から強くお誘いを受け、引き受けることになりましたが、主任児童委員という役職はお引き受けするまでは知りませんでした。

主任児童委員として、0歳児のための「赤ちゃん教室」のお手伝いや、公園遊び、子育てサロンなどのボランティアとして活動し、運営にも関わり、また赤ちゃんが生まれてから4カ月目までのご家庭に伺い情報をお届けする「こんにちは赤ちゃん訪問」の訪問員もしています。そんな中、5年ほど前に小学校と中学校からボランティアのお話がありました。

野庭すずかけ小学校の校長先生からは、個別支援級の見守りボランティアにぜひ来てほしいというお話をいただきました

ました。最初はお断りしましたが、毎日でなくても来られる時に来てくださるとの熱心なおさそいにお引き受けすることにしました。実際には、少なくとも週2回、3、4回伺うこともありました。

その後、港南区の主任児童委員の代表や、野庭小学校の跡地に平成25年に開所した「よこはま港南地域療育センター」の運営委員を受けるとになり、今は何回回数が少し減ってしまっています。

同じ頃に野庭中学校で「野庭スペシャル補習」という夕方方のプログラムに協力する学習ボランティアの募集があり、小学校のボランティアとは時間帯が重ならないので、こちらも行くようになりまし。そして、2年目の夏になる頃に、校長先生から「今までのスペシャル補習のボランティアの経験を生かして、地域と学校との橋渡し役として、学校・地域コーディネーター（42ページ参照）になってもらえませんか」とのご依頼があり、研修を受けて、学校・地域コーディネーターになりました。

ボランティアのみなさんの
やる気に応える

頼があり、研修を受けて、学校・地域コーディネーターになりました。

スペシャル補習については担当の先生と打合せをしながら、ボランティア講師が中心となつて行っています。毎週木曜日の5時10分から6時10分までです。現在、参加している生徒は1年生から3年生までの毎回50人前後です。全校生徒が215人ですから、4分の1くらいが来ていることになりました。ボランティア講師は私を含め9人で、毎回7、8人は来ていますが、全員を一人一人きめ細かく見るにはぎりぎりの人数です。60代、70代の方が多く、毎回楽しみに来てくださっています。ボランティアのみなさんからは私に、「1時間では短いので2時間にしてほしい」とか、「週2回にできないか」など、学校へのご意見をいただくこともあります。自分で

プリントを作ってくれ方もいます。ある日、「今日は台風なのでスペシャル補習は中止です」と学校から連絡をいただいで、ボランティアのみなさんにお知らせすると、「スペシャル補習が始まる頃には台風が過ぎていと思う」とのアドバイスに、学校に「中止にするのはもう少し待ってもらえませんか」とお伝えしたこともあります。それくらいやる気のある方々なので、いつも学校からもらった最新の情報をいち早くお伝えするようにしています。欠席された方にも、その日にあったことを事細かに伝えていきます。

一人ひとりと仲良くなる

スペシャル補習に来る生徒は、勉強が全くわからない子、少しだけ遅れていてちよつと教えればわかる子、ずっとそばにいて教えてほしい子、学習の様子を覗き込まれたくない子、わからない時だけ手を挙げるから来てくだ

山田 緑さん

野庭中学校（港南区）の学校・地域コーディネーター。野庭小学校及び野庭中学校のPTA役員を歴任。平成16年から現在まで主任児童委員。港南区内の3つの公立保育所の第三者委員。連日学校に足を運び、子ども、高齢者など地域のさまざまな人とともに学校ボランティアを楽しんでいる。



聞き手

伊藤 和義

教育委員会事務局南部学校教育事務所指導主事室主任指導主事

高橋 義成

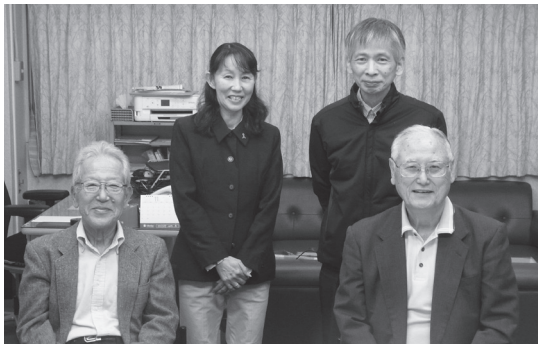
教育委員会事務局南部学校教育事務所指導主事室指導主事



スペシャル補習の様子 (野庭中学校)

さいという子のように、一人ひとりが全く違うので、最初の頃は、うまくいかなかったこともありました。

最初の年に初めて教えた2年生に、九九ができない、英語はbe動詞から、という子がいて、シヨックを受けました。現在、スペシャル補習が始まって6年目ということもあり、「あの子はこんなタイプかな」とか、「あの子は英語はできるけど、数学は苦手だから」と、情報を共有し、ボランティア講師のみなさんはチームワーク良く一人ひとりを良く見てくださいます。



スペシャル補習ボランティアのみなさま

私自身は主任児童委員をしていて、保育園や学校との関わりもあり、「保育園のあの子が小学校に入った」、「小学校のあの子が中学校に行つた」となるので、知っている子が無事中学校を卒業する時はとてもうれしく思います。

ボランティア同士の会議も、たまに「やろうよ」と言っていて開いています。ボランティアさんから勉強のやり方のアイデアをいただきます、どんどん取り入れています。成果が出るとボランティアさんのやる気もあがります。教科書が変わると、教科書を購入して勉強会を開いて、「どうやら数学のここはこういう教え方に変えないといけないらしい」などと、研究しています。

学校のあの子が中学校に行つた」となるので、知っている子が無事中学校を卒業する時はとてもうれしく思います。

ボランティア同士の会議も、たまに「やろうよ」と言っていて開いています。ボランティアさんから勉強のやり方のアイデアをいただきます、どんどん取り入れています。成果が出るとボランティアさんのやる気もあがります。教科書が変わると、教科書を購入して勉強会を開いて、「どうやら数学のここはこういう教え方に変えないといけないらしい」などと、研究しています。

うした、きょうはぐっすり寝てしまったね」なんて話しかけると、「心配ごとがあつて、眠れないのが何日も続いている」と言ったりします。縦の関係ではない、責任のないおばさんとおじさんが聞いているような感じで、仲よくなるように先生に言えないようになりま

つながり、楽しさを感じられるようになった3期目

振り返ると、PTA活動から始まって、主任児童委員、小学校と中学校のボランティア、学校・地域コーディネーターと活動が広がってきて、今は人の役に立ちたい、立てるのがうれしいという気持ちが大きくなりました。

主任児童委員になつたばかりの1期目は、何のために？ということもよくわからないままに「これをやって、あれをやつて」と指示されたことを一生懸命こなしているだけでした。続けることに不安のあるなかで、次の2期目、6年目まではつらかったです。それが、3期目の7年目に入ったところから、人とつながっているように感じられて来て、ボランティアがどんどんおもしろくなつていきました。

区の代表も大事な役目ですが、それ以上に自分の地域でもっと人と人をつなげていきたいと感じています。お年寄りも、子どもも、赤ちゃんも、みんながつながっていかれるといいと思います。

先日、野庭地区センターのお祭りで催し物の人手が足りないという時に、子どもと一緒に遊ぶ中学生のボランティアを募集したらどうかと意見が出て、野庭中に話をしに行きました。「中学生は忙しい」といつも聞いているので、「全員が忙しい訳じゃないですよ、お弁当も出しますよ」などと言いながら校長先生にお願いしたら、結局8人に来てもらえました。野庭地区センターのもう一方の学区の丸山台中学校にも頼んだところ、6人来てくれました。すごく助かりました。地域の方も若い人の参加を喜んでくれましたし、小学生も中学生も遊びを通して楽しい時間を過ごせました。

ボランティアを続けていくには自分も楽しいのが大事だと思います。担い手自身も楽しかったり、うれしかったりすることを大切に活動していきたいです。地域や学校のボ